

## 複合病態に即したNPPV設定調整と圧可変モードの工夫

松本協立病院

○三浦 一望<sup>1)</sup> 大澤 拓<sup>2)</sup> 江田 清一郎<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>PT

<sup>2)</sup>CN

<sup>3)</sup>Dr

当院は地方の中小規模市中病院であり、高齢化、複合疾患症例が多数利用されている。故にNPPV導入目的も、主となる2型呼吸不全だけでなく併存する心不全のCSR/CSA解消や、COPDやACOの強い気流制限や増悪に対しての適用、脊椎カリエス後遺症・脊柱側彎症などの拘束性胸郭疾患に対する高い圧換気補助など多様である。また使用モードも、単純なCPAPやS/TモードだけでなくiVAPSやAE、またトリガーやライズ、圧数値などを、呼吸チームで検討し細かく調整している。

入院期間内で設定や使用アドヒアランスが十分に得られない場合が多い。それら継続使用患者に対して、プロバイダの協力を得て、在宅での継続使用状況をログデータにて把握し再検討、再調整を行っている。

病態に合わせた細かな設定調整をしている現状を、代表症例や、失敗症例も含めて報告する。